

「お金がないと学校に行けないの？」 首都圏高校生集会実行委員会からのお願い

この10年間で、経済的格差や貧困が広がっています。
そして、私たち高校生は「エリをつかまれて学校からつまみだされる」、
そのような息苦しい感覚を背負って、学校に毎日通っています。
この10年前には、定時制生徒の授業料減免者数が5.9%でした。
07年には、授業料減免者数が19.7%と約4倍に増大しました。
しかし、08年には授業料減免基準が厳しくなり、
授業料を払えず、学校に通えない高校生が増加しています。
先進国のほとんどが、高校・大学の授業料は無償なのに、日本は有料です。

私たち高校生が、どんなに日常生活で苦勞して学校に通っているか、
その実態を知るべく、アンケート調査をし、1118名から回答を得ました。
「高校の学費が高く高校に通い続けられるか不安」な高校生は約9%になります。
「学費の事で家族に迷惑をかけて申し訳ないと思う」高校生は27%にもなりました。
「修学旅行費が払えず修学旅行に行けない」定時制高校生は約9%も存在します。
「アルバイトして授業料や経費などを支払う」高校生は31%もいます。
「高校生活上、何らかの不安や経済的支援が必要」と考えている高校生は70%です。
経済的格差や貧困が広がるなか、高校生達はそれを身体で感じながらも、
可能な範囲で、自分の身体を酷使しながら頑張っている姿が浮き上がってきます。

いま直ぐにして欲しいことは、
授業料の無償化です。当面、授業減免基準の引き下げが必要です。
定通制では給食費補助の復活が必要です。本来ならば給食完全無償化であるべきです。
また教科書を含め、教育諸経費の無償化も求めます。
そして、就職や進路の保障は絶対必要です。
もちろん父親母親の職の保障と、賃金安定化を要望します。

このような高校生の声を皆さんに聞いてもらいたい、皆さんと一緒に考えたい、
そのような思いで7月19日(日)には渋谷で「パレード」を計画しました。
また7月26日(日)には、埼玉県三郷市の「三郷鷹野文化センター」にて、
「お金がないと学校に行けないの！首都圏高校生集会」を計画しました。

お願いがあります。
準備計画にあたって、私たち高校生には資金がありません。
様々な形で援助支援をいただければと思います。
また、19日・26日両日に多くの参加を頂けるよう、
周りの皆様に声をかけて頂き、一緒に参加して頂ければと思います。
以上よろしくお願い致します。

2009年7月1日 首都圏高校生集会実行委員会・実行委員長 山田さくら